

さんけん通信

上高地で樹木ウォッチングを

山研管理人山田和人

5月末、上高地は早春から初夏への衣替えが進んでいきます。遊歩道の端には綺麗なお花たちが次々と咲き、夏鳥たちの囀さえずりも盛んになります。先日のTVニュースでも、ニリンソウを見に来ましたというハイカーが映っていました。今回の「さんけん通信」では、あまり目立つことのない、でも、しっかりと上高地の自然風景を支えている樹木について簡単に紹介してみます。

*

4月22日の開所作業時には、山研の北側窓から白い奥穂・ジャンダルムが、そして、東側バルコニーに立つと梓川の流れが見えていましたが、今は広葉樹の新緑に覆われてほとんど見ることはできません。再びジャンダルムが見えるのは、葉が落ちる10月末です。山研が建っているのは善六沢の扇状地の上で、東側と北側はハルニレ、サワグルミ、梓川に近付くとダケカンバ、ハンノキ、ヤナギなどの落葉広葉樹が、比較的明るい森をつくっています。南側・西側は暗い常緑針葉樹となり、この森は西穂・奥穂・前穂・明神岳へと広がっています。イチイ、ウラジロモミ、シラビソ、コメツガなど、年間を通して姿を変えることのない安定した森です。

*

山研を出て明神池に向かう梓川右岸歩道は、針葉樹と広葉樹が入り混じった森（針広混交林）となっています。河童橋から続くこの右岸歩道沿いでは、少し変わった樹々の光景が見られます。写真のようにいくつかの樹種がくっつき合い、絡まり合いながら立っています。仲良く場所をシェアしているようにも見えますが、これは成長の過程で光を奪い合いながら、相手を圧倒しようと大喧嘩を続けている様なのです。

植物は、一度根を下ろした場所から動くことはできません。そして、光を浴びないと枯れてしまいます。樹種によって成長の速さには差があり、また必要な光の量も違います。ダケカンバに代表される成長の速い広葉樹は、先行して



絡まり合うダケカンバとコメツ

いる周りの樹より少しでも幹を伸ばして光を取ろうとします。一方で成長の遅いシラビソやコメツガは、枝を広げて後からやって来た相手の成長を妨げようとしています。そのような樹々が3つ4つと絡まり合い、何十年も闘い続けきた結果なのです。

*

山研から岳沢湿原までの遊歩道沿いには、針葉樹の中でも特に成長の遅いイチイが数多く見られますが、ここでは先に見たような複数樹種による争いの光景ではなく、イチイだけが大きく枝を広げて堂々としています。樹高はそれほど高くありません。ここでは争いがなかったわけではなく、イチイが最終的な勝者として、もはや他者の侵入を許さない確固たる地位を固めているのです。急いで高くなる必要もありません。過去にどんな争いがあったのか、想像してみてもいいでしょう。ヒントは、イチイが弱い光でも枯れることなく遅い成長を続けられること。針葉樹には珍しく落葉する樹がカラマツ（落葉松）です。河童橋付近は人工林ですが、梓川沿いには右岸・左岸ともに天然のカラマツも多く、針葉樹ですが成長が早くてハンノキなどと同じ土俵で森を形成していきます。巨木の天然カラマツについては、またの機会に。



大きく枝を広げたイチイの大木

山研に泊まって、樹木ウォッチングをしてみませんか。

(森林インストラクター)